

おめでとうございます

「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」が令和2年度都市景観大賞「優秀賞」受賞

国土交通省が主催する都市景観大賞において、「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」が都市空間部門の優秀賞を受賞しました。都市景観大賞は、毎年、景観の優れた地区・活動を表彰し、全国に広く紹介することで良好な景観の形成が進んでいくことを目的に実施されています。「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」は、たたら製鉄の旧経営者の住居、現役で稼働するたたら製鉄の施設や砂鉄鉱山の跡地を再生した棚田などで構成されており、この文化的な景観を活かした町づくり活動が評価され、受賞となりました。



都市空間部門では、大賞1件、優秀賞は「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」を含め4件が選出されました。

おめでとうございます

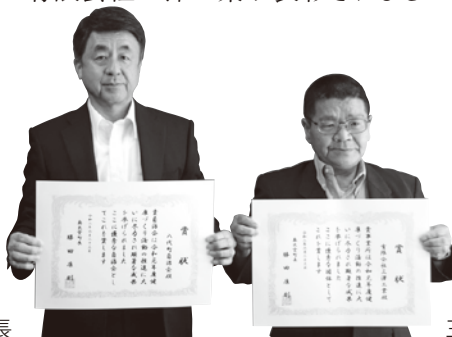
令和元年度健康づくり推進活動表彰

6月23日、令和元年度の健康づくり推進活動表彰（年間を通して健康づくり活動を計画的に実施する団体を表彰）が行われ、八代町自治会と有限会社三澤工業が表彰されました。

八代町自治会の活動

- ・奥出雲いきいき体操 週1回実施
- ・食についての啓発活動
- ・自治会集会以の禁煙・分煙 など

増原八代町自治会長



有限会社三澤工業の活動

- ・年に複数回、健康学習会を開催
- ・毎日のラジオ体操実施 など

三澤代表取締役

井上医院 井上晃先生に叙位「従六位」

平成28年度に旭日双光章を受章され、令和2年2月に逝去された井上晃先生が、生前の功績により内閣総理大臣から「従六位」に叙せられました。井上先生は、昭和34年長崎大学を卒業後、長崎大学原爆放射能医学研究所などを経て、長崎市立市民病院内科部長として勤務されました。そして、昭和54年、井上医院を継承し、院長として約40年わたり、地域住民の相談役として昼夜を問わず、地域医療・学校保健の推進に貢献されました。位記を受領されたご子息の井上慎一さんは「父は、医療が大好きでしたから、医療に集中できる環境を作って下さった町民の皆さまに感謝申し上げます。」と話されました。



井上晃先生のご子息の井上慎一さん

奥出雲病院 着任のあいさつ

7月1日から来年3月31日までの間、中山瑤子先生（外科部長）が着任されました。

このたび、奥出雲病院に外科医として着任しました。

患者さん第一の医療が行えるように心がけたいと思います。



外科部長 中山瑤子先生

ありがとうございました

町内在住の匿名希望の方から「障がい者福祉の向上のため、使ってほしい」と100万円のご寄附の申し出がありました。ご本人様のご要望により「モモ様」とご紹介させていただきます。モモ様のご芳情に感謝申し上げますとともに、ご厚意に沿うよう有効に活用させていただきます。

奥出雲仁多米株式会社が「仁多米」を島根デザイン専門学校 島根リハビリテーション学院に寄贈

6月9日、奥出雲仁多米株式会社は、新型コロナウイルス感染症の拡大により経済面で影響を受けた島根デザイン専門学校と島根リハビリテーション学院の生徒約250名へ生活支援として、一人あたり仁多米3kgを寄贈しました。

島根デザイン専門学校のダギジュマさんは「アルバイトができず、みんな困っていたのでとても喜んでいきます。」と話されました。また、島根リハビリテーション学院の持田航大さんは「ご支援いただき感謝しています。この気持ちを忘れず、日々の生活を送ります。また、自炊をする機会が増え、普段料理を作ってくれる人へのありがたさを感じるようになりました。」と述べられました。



島根リハビリテーション学院2019年度学生自治会役員の持田航大さん（中央）、寺本副会長（右から2人目）、田部副会長（右）、奥出雲仁多米（株）の内田部長（左）



島根デザイン専門学校生のダギジュマさん（右）

奥出雲仁多米株式会社と農業生産法人コスモ二十一が「仁多米」を島根大学に寄贈

6月22日、新型コロナウイルス感染症の拡大により経済面で影響を受けた島根大学の学生支援策として、奥出雲仁多米株式会社と農業生産法人コスモ二十一が、奥出雲町での教育・研究の拠点である「奥出雲ラボ」を設置している島根大学教育学部地理学研究室にそれぞれ60kgの仁多米を寄贈しました。

寄贈された仁多米は、地理学研究室から学生組織を通じて島根大学周辺の店舗に提供され、学生は安くお弁当を購入することができる仕組みがとられています。仁多米を受け取った作野教授は「前期は、インターネットを使用した遠隔授業でした。学生は、アルバイトもできず食費を削って勉学に励んでいます。頂いたお米は「命を救うお米」と考えています。」と感謝の言葉を述べられました。農業生産法人コスモ二十一藤原代表取締役は「自身も子供が一人暮らしをしており、親心で少しでも力になりたいと思いました。」と述べられ、奥出雲仁多米株式会社の内田部長は「大学生は、経済的に苦しいと聞いていますので、少しでも支援ができればと思っています。そして、この機会に仁多米のおいしさを知って欲しいです。」と話されました。



島根大学の作野教授（右）、同大4年で奥出雲町出身の大塚さん（右から2人目）、コスモ二十一の藤原代表取締役（右から3人目）

日本農業遺産ロゴマーク決定！！

仁多米、産直野菜など奥出雲町産の農産品等のPRにご利用ください

奥出雲町農業遺産推進協議会では、日本農業遺産の認定を受け、奥出雲のたたら製鉄や循環型農業をイメージするロゴマークを募集したところ、全国から411作品の応募がありました。選考の結果、最優秀賞に渡部潤さん（愛媛県）のたたらと奥出雲の棚田風景をイメージとした作品に決定しました。



たたら製鉄由来の資源循環型農業
日本農業遺産・奥出雲町

<<ロゴマークの利用について>>

申請書を提出し、町農業遺産推進協議会から使用承認を受けた方が次の場合に利用できます。

- ①奥出雲町産の農林畜産物のPR・販売で使用する場合。
- ②加工品、飲食店等の料理等で原材料に奥出雲町産の農産品を使用している場合。
- ③農業遺産の普及啓発、農泊の取組、農業体験、棚田のイベント、講演会等（ポスター、パンフレット、チラシ、看板等）で使用する場合。

ロゴマーク使用申請書等詳しくはこちら↓

<https://www.town.okuizumo.shimane.jp/www/contents/1579242668624/index.html>

【お問い合わせ】 農業振興課 農業遺産推進グループ
有線:31-5283 電話:54-2513